

安平町家畜排せつ物利用促進計画

市町村名 安平町

作成年月 令和3年10月

1 家畜排せつ物の利用の現状

本町では、近年酪農・畜産業の規模拡大や生産拡大を進めるなど順調に発展してきたが、経営者の高齢化や営農支援組織の労働力不足などの影響で経営が困難になり、養畜農家戸数は少しずつ減少しているものの、企業の飼養規模は増大傾向である。

家畜ふん尿発生量は217,087トンと推計され、うち95%がたい肥化処理されている。残り5%はスラリー、尿、放牧で処理されている。

家畜排せつ物の利用については、44%が経営内利用、53%が経営外利用、残り3%が浄化処理されている。

2 家畜排せつ物利用の目標と取り組み

(1) 基本的な取組事項

ア 耕畜連携の推進

- ・耕種農家のたい肥の需要量や受入可能量、必要とする品質、価格、時期、機械作業などを把握し、耕種農家のニーズに即したたい肥の供給・拡大を推進するため、必要な情報提供を行う。
- ・麦かん、稲わらによる飼料、敷料、水分調整材の確保等を円滑に進めるため、供給量を把握するとともに必要な情報提供を行う。

イ 適切な施肥管理

- ・家畜排せつ物を農地に還元するに当たっては、適期・適正散布を行うとともに、土壌診断を推進し「北海道施肥ガイド」の土壌診断基準等に基づく、適切な施肥管理を推進する。

ウ 指導体制の強化

- ・管理適正化指導チームによる巡回指導を行い、家畜排せつ物の管理の適正化と適切なたい肥化処理や散布作業などの一層の促進を推進する。

(2) 重点的取組事項

ア 重点指導

- ・畜産農家の取組状況など関係者相互の認識の共有化を図り、環境への協調的な取り組みを進める。特に、畜産環境対策が重要となる安平川近辺、東遠浅地区において、個別の施用計画の検討や指導を重点的に行う。

イ 臭気対策の推進

- ・近年、環境に対する意識の向上により、住民の目が厳しいものとなっている。悪臭の発生を抑えながら地域住民の環境保全を図って行くことが課題となっており、運搬方法や散布方法について徹底を図る。

ウ 放牧の推進

- ・集約放牧技術等の普及に努め、放牧草地の草生管理や周辺環境に配慮した適正な放牧利用を推進する。また、公共牧野のさらなる利用促進についても推進する。

エ 敷料・水分調整材の確保

・町内畜産農家の敷料・水分調整材は、麦かんを主体におがくずなどが利用されているが、今後、戻したい肥や、稲わらのたい肥化などの取り組みを進める。

オ ニーズに即したたい肥づくり

・たい肥需要者のニーズ（成分分析結果、腐熟度、価格）に即したたい肥づくりを推進する。

カ たい肥利用の推進

・土壌診断の結果やたい肥施用マニュアルに基づき、耕種農家による良質たい肥の適正施用を進め、健康な土づくりを積極的に推進する。特にたい肥を活用した持続的な農業の担い手としてエコファーマーの認定を促進する。